

意見交換会（奥湯河原・温泉場・宮上地区）議事要旨

日時：平成 29 年 7 月 25 日（火）18 時 30 分～

場所：観光会館 2 階中会議室

参加者数：45 名

（オレンジライン・若草山団地）

- ・年齢的に免許を返納するかどうか悩んでおり、返納した場合、買物ができなくなる。
- ・新たな公共交通を運行した場合、利用目的は買物が中心で、運行時間帯は日中時間帯に運行していれば良い。
- ・頻度は週 3～4 日程度、行き先は小田原百貨店、ハンディー、エスポット、病院、宮下会館、城堀会館。銀行、湯河原駅に行きたい。以前若草山団地内でヒアリングした所は、ほぼ同じような傾向。
- ・また、以前地区で行ったアンケートでは、バスが仮に運行した場合、72%が使いたい、25%が免許返納後に利用したい、利用しない方は 2%という結果。

（若草山団地隣のプリンスハイム）

- ・大変交通は不便。免許を返納し、移動に不便な思いをしており、タクシーを往復利用した場合、3,000 円位、片道で 1,400 円程度掛かり、経済的に大変。この地区を選択して住んでいるが、病院へ行く場合、医療費よりタクシー代の方が高く、不便であるので、早くバスを運行して頂きたい。以前運行して頂いた介護タクシーは 500 円で駅まで行け良かったものの、突然廃止となったため、早く対策をして頂きたい。
- 町内で事業者により実施されていた介護タクシーは違法のため、廃止となった。

（オレンジラインの上）

- ・9 年前に引っ越ししてきた。もうそろそろ横浜へ帰ろうと思っている。早くバスを運行して欲しい。

（オレンジライン奥のマンション）

- ・2 年前に引っ越したものの、交通のインフラがネックと感じている。自分は若いため、車は運転できるものの、同じマンションには免許を返納したい方もいる。
 - ・タクシーを日常的に使うのは現実的に厳しいと思う。
 - ・オレンジラインエリアは世帯数も多いが、過去にバス会社の方で運行しようとした経緯はあるのか。マンションを購入に当たって、バスを運行していないという理由で購入をあきらめている方もいて、出ていく人の方が多い。
 - ・全国では交通難民対策として、2015 年頃から自治体とヤマト運輸が協力し、貨客混載などを実施中で、積極的に自治体と連携しながら取り組んでおり、湯河原町でもヤマト運輸から過去打診があったのか。異業種ではあるが、運送トラックはオレンジラインを日中何度も通行しているため、選択肢の 1 つにして頂きたい。
 - ・意見交換会については、出来れば会社員など働いている若い世代が参加しやすいよう、平日夜ではなく、休日に開催して頂きたい。
- オレンジラインについては、平成 10、11 年頃の実証実験を行ったものの、その当時は利用が少なく、実現に至らなかった経緯がある。しかし、現在はその当時と年齢層など状況が変化していると認識している。

現在まで、貨客混載についてヤマト運輸から町への打診はない。民間業者の活用については、交通会議の中で検討することになる。

(温泉場)

- ・路線バスは県道 75 号線のみ運行しており、温泉場にもコミュニティバスを是非運行して頂きたい。具体的には、こごめの湯～万葉橋～桜山入口、湯河原病院～若草山～藤木橋間は坂が多いため、コミュニティバスを運行して頂きたい。さらに、オレンジラインを通行し、奥湯河原の手前までの区間として、3つの路線を運行して頂ければ利用者も多いと思う。

(孫込団地)

- ・当団地は高齢者が多く、坂道が多いため、バスを是非運行して頂きたい。

(若草山団地)

- ・新たな公共交通については、東京へ行くため、運行時間帯は朝 7 時～夕方 8 時、運行便数は 1 日 10 便位欲しい。運行ルートは湯河原駅を起点に、エスポートなどにも行き易いよう乗継割引運賃を適用して頂きたい。

- ・料金は対キロでも良い。

- ・タクシーについては、乱暴に運転する方もいて、湯河原駅からエスポートまでタクシーを利用する際、距離が近いため、対応が悪い運転手がいた。利用者が、手段を選択ができるような公共交通が重要ではないか。

→乗継運賃の導入についてはバス事業者の判断。

(若草山団地)

- ・長時間掛かってもいいから、ぐるぐる回りながら目的地へ行ければ良い。駅を中心ではなく、エスポートなどスーパーをぐるぐる回る路線であれば買い物しやすい。

(オレンジライン)

- ・オレンジライン上は、回送バスが結構通るため、回送バスを利用できるようにして頂きたい。

- ・過去の実証運行の際、観光会館から若草山管理事務所まで利用した。その際駅へ行くには不便さを感じた。

(若草山団地)

- ・もうすぐ 70 歳。現状では、免許を返納した場合、買い物へ行けなくなる。付近にバスが通れば返納したいと考えている。

- ・オレンジラインエリアで新たな公共交通を運行した場合の収支は試算しているのか。

→収支は今後、実証運行の方法を検討する段階で試算する予定。

(温泉場)

- ・新たな公共交通システムの対象者は湯河原町の住民登録がある町民のみ対象とするべきである。

→現実的に町民かどうか判断するのは厳しい。

(オレンジラインの上)

- ・コミュニティバスはいつ運行したのか。オレンジラインで何故運行しないのか。

→コミュニティバスは平成 12 年頃に運行を開始しており、オレンジライン沿線のルートも同時期に運行を開始したものの、利用が少なく、廃止した経緯がある。

(若草山団地)

- ・町民間の不公平を解消して頂きたい。また、タクシー業界の考えではなく、住民中心に考えて頂きたい。

(馬込団地)

- ・熱海市で運行中の「ゆうゆうバス」は、導入する際、タクシー業界が猛反発し、現在約 1,500 万円の赤字と聞いている。神奈川県内の湯河原町でも運行できると思うので頑張って頂きたい。

(宮上)

- ・以前運行していたのは観光会館までであった。来年度に試験運行する場合、観光協会より奥の集落まで運行して頂きたい。

(オレンジライン奥のマンション)

- ・運行実験する際、長期間の周知徹底をして頂きたい。

- ・住民の意見を聞くのは大事であるが、町としてどのように発展していきたいのか、町のビジョンを示して頂きたい。

→空き家が大きな課題となっている。地方創生の面からも、公共交通を充実させることが重要である。新たな交通について、決まっているのは既存事業者と共存し、財政面からも持続可能な形を導入すること。

- ・持続可能というのは非常に難しい。環境面から考えるとコミュニティバスを運行する場合、騒音なども発生する。29 人乗り、26 人乗りのバスでは、車椅子利用を可能とすることも重要。環境に配慮したバスに関しては国の補助制度もあるため、それを活用し導入して頂きたい。

(若草山団地隣のプリンスハイム)

- ・行政でコミュニティバスを運行して頂けたらありがたい。マンション売りたくても売れない。資産価値にも影響する。

→あくまで、町の交通不便をどう解消するのかという視点で考えていきたい。